

# 本草真詮

本书成书于明万历三十年（1602）。作者认为习医不可粗知药物温热寒凉、主治反毒，亦不可妄投奇方怪药，应当熟谙制方之宜及阴阳、运气、经络、脉因证治之理。于是取《证类本草》、《本草集要》、《本草蒙筌》等书，搜其要旨，悉心编排，匠心独运，以运气、经络理论等统摄本草，而成本书。

张瑞贤／孙娟娟／梁飞／张卫／李健

校注

學苑出版社

# 本草真詮

[明] 杨崇魁 辑

张瑞贤 孙娟娟 梁飞 张卫 李健 校注



## 图书在版编目(CIP)数据

本草真诠 / [明]杨崇魁辑; 张瑞贤等校注. —北京: 学苑出版社, 2011. 8

ISBN 978-7-5077-3838-4

I. ①本… II. ①杨…②张… III. ①本草-汇编-中国-古代 IV. ①R281.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 167471 号

责任编辑: 马红治

出版发行: 学苑出版社

社 址: 北京市丰台区南方庄 2 号院 1 号楼

邮政编码: 100079

网 址: [www.book001.com](http://www.book001.com)

电子信箱: [xueyuan@public.bta.net.cn](mailto:xueyuan@public.bta.net.cn)

销售电话: 010-67675512、67678944、67601101(邮购)

经 销: 新华书店

印 刷 厂: 河北三河灵山红旗印刷厂

开本尺寸: 890×1240 1/32

印 张: 8.125

字 数: 164 千字

印 数: 0001—3000 册

版 次: 2011 年 9 月第 1 版

印 次: 2011 年 9 月第 1 次印刷

定 价: 20.00 元

# 前 言

《本草真诠》由明代杨崇魁编写。杨崇魁，生卒年代不详，字调鼎，号搜真子，清漳（今河北肥乡县）人，以儒知名，兼涉医道。

本书成书于明万历三十年（1602）。作者认为古时医者皆为博物家，精通经典，熟悉方药，因而治疗疾病效如桴鼓。而至当时，儒者多认为医为小道，医生都是蝇营狗苟骗取钱财的人，而不屑言医。医者则不肯钻研经典，仅粗知药性，草率行医，或者妄投奇方怪药，或者为牟利益和名声而滥开贵细药材。这些都是当时的不良风气。作者认为作为儒者应该了解医道，作为医生应当熟谙制方之宜及阴阳、运气、经络、脉因证治之理。于是取《证类本草》、《本草集要》、《本草蒙筌》等书，搜其要旨，悉心编排，而成本书。全书分为六集，卷上一集讨论运气，分别以十干纪运图、阳年太过图、阴年不及图等依次介绍五运六气有关内容。二集介绍手太阴肺经、手阳明大肠经等十二经气血、病机、温凉、补泻药。三集仿照王纶《本草集要·药性分类》，分列治风、治热、治湿、治燥等十二门，并统领诸药，于各药名下简略介绍其主治功效。卷下一集首列诸品药性阴阳论。二集为食治门，分米谷、

菜蔬、果品、走兽、飞禽、虫鱼等六类 130 余条。三集摘录各家本草序例内容，诸如十二经水火分治歌、制方之法、论出产择地土、论收采按时月、藏留防耗坏、贸易辨真假等。本书在内容上没有创新增益，只是在编排上与众不同。

(一) 本书为孤本，仅存明万历三十年建邑余良进（苍泉）怡庆堂刻本，藏国家图书馆。本次校注采用中国中医科学院图书馆据国图藏本复制本为底本，参考历代医学、本草著作作为他校本，参以本书上下文字的本校和理校结合。

(二) 他校采用的历代主要医籍包括《黄帝内经素问》《灵枢经》《证类本草》《汤液本草》《本草集要》《本草蒙筌》等。如出现明显引录于某书但缺字者，只要语义能通既不改动，也不出校。这种情况出现最多。

(三) 有因引录时缺字无法读通者，则据原书补入，同时加写校语；有无法读通，一时查找不到引书而错误明显者，则根据文义进行改动，并出校语；如错误不明显者，则不改动原文，出校说明，如“当作……”。

(四) 原书残缺，自序阙如，此次校注时根据日本丹波元胤《医籍考》中存其自序补入。

(五) 书中凡加校记之处，均用“脚注序号”标出，而将校记附于页末。

(六) 书中对于个别难懂的字、词、典故加以注释，以“注”的形式列于该卷卷尾。因读者当具备一

定中医药知识，为减省篇幅，对于中医术语一律不注。

(七) 书中各种异体字、繁体字均改用简体字，笔画有差错残缺的，就直接改正，不加校记。对于古今字、通假字均不改动。

(八) 对于书中出现发音相同或相近的常用药名，一般改为通行用法，如山查→山楂，班猫→斑蝥，白芨→白及，黄耆→黄芪，等等。而对于某些字音不同或改动容易引起歧义的药名则不改，如薯蓣不改为山药，檠不改为柏。

这次校点，虽然做了一些努力，但限于校释者水平有限，错漏之处一定不少，希望读者指正，以便今后改进。

## 本草真詮序

古之医者，多出于博物好古<sup>①</sup>之士，是以研《素》、《难》，精色脉，洞阴阳，晓方饵，故投剂若神，而声名烂<sup>②</sup>焉。若张、葛、陶、王、孙、刘、李、朱<sup>③</sup>，彰彰可睹矣。降而今也，谓医为小道，儒者薄而弗屑，彼委琐齷齪之流，缘习以为利。是故岐扁所议，耳所未闻；《图经》所载，目所未睹。妄以己意，按成方徼幸奇中。间有识者，亦惟是窥其籓篱<sup>④</sup>，未涉闾奥<sup>⑤</sup>，粗知温凉寒热而已、主治反毒而已，试叩以奇偶大小之制、缓急逆顺之宜，则固罔然失也。矧运气之变、经络之详、阴阳之辨、升降浮沉之说，如何能解悟焉？又其甚者，以贵品窥厚利，以妄诞猎虚名，珠犀冰麝<sup>⑥</sup>，无往弗投；奇方怪石，遇病杂施。此辈出，而脉因证治乖经离本<sup>⑦</sup>，病之危者什九<sup>⑧</sup>矣。寄死生之谓何？

① 古：原作“士”，据文义改。

② 烂：灿烂。这里指声名显赫。

③ 张、葛、陶、王、孙、刘、李、朱：即历代名医张仲景、葛洪、陶弘景、王叔和、孙思邈、刘完素、李东垣和朱震亨。

④ 籓篱：篱笆。比喻门户。

⑤ 闾（kūn，音捆）奥：内室。比喻奥旨。闾，门槛。

⑥ 珠犀冰麝：珍珠、犀角、冰片、麝香。比喻贵重药材。

⑦ 本：原作“次”，据文义改。

⑧ 什九：十分之九，形容多。

此其无恒<sup>①</sup>之尤者也？又何十全三德<sup>②</sup>之足云哉？予以夙晦<sup>③</sup>作蠹简编<sup>④</sup>，于岐黄之书尝致意焉，至阅世之医者如彼，安能无惻然于怀乎？于是不諒矩见<sup>⑤</sup>，取诸家本草采而集诸，稽自炎黄太乙，迄于节斋古庵<sup>⑥</sup>，靡不搜其要妙，遗其迂僻，据摭成帙，命之曰《本草真詮》。盖先以明运气，次以别经络，中以列证治，继以辨阴阳，而证以古人之议论终焉。信乎！医者，便于检用；饵者，便于稽疑。一展卷间，宏纲要旨，昭然在目。彼向之积案盈箱，皆糟粕矣。而难者曰：“九折臂而成医。医不三世，不服其药。甚哉，医之难也！吾子方以儒闻，世俗溺于所见，夫谁其信之？”予应之曰：“非然也！医之来尚矣，其学遍物之智也，其心道济之仁也，有其智而行其仁，此唯吾儒有焉。然则是编也，不足以尽吾儒，宁不足以见吾儒乎？谓世不信我，吾何敢知！何敢知！”

### 昔万历壬寅岁仲春搜真子杨崇魁序

① 无恒：《论语·子路》中有“人而无恒，不可以作巫医”，这里代指医生。

② 十全三德：明代医家寇平《全幼心鉴》中有《医学规矩》篇，提出“十全三德”的医德概念，十全即“一要识字，二要阴阳，三辨脉理，四知规矩，五明反覆，六尝药性，七会针灸，八要端状，九要礼貌，十要合人”。三德即“一德者，要博览群书，观古贤先典秘书，救一切黎庶之怪症，此乃是一德也。二德者，行如流水，坐如泰山，不识美色，不构资财，此乃是二德也。三德者，有富贵之家，不可以犀角象牙为丸，取奉于他；与贫穷之家，不可以胡麻粉面为丸，欺哄于他”。

③ 夙（sù，音速）晦：早晚。夙，早。晦，夜晚。

④ 蠹简编：当是“蠹简遗编”，泛指残存的书籍。

⑤ 矩见：当为“短见”。

⑥ 节斋古庵：即明代著名医家王纶、方广。



# 目 录<sup>①</sup>

## 新刊官板本草真诠卷之上

一集 .....	(2)
十干纪运之图 .....	(2)
阳年太过主胜客负图  阴年不及主负客胜图 .....	(4)
地支六气之图 .....	(6)
子午年司天客气加主气图 .....	(8)
丑未年司天客气加主气图 .....	(10)
寅申年司天客气加主气图 .....	(12)
卯酉年司天客气加主气图 .....	(14)
辰戌年司天客气加主气图 .....	(16)
巳亥年司天客气加主气图 .....	(18)
六十年五运六气加临之图 .....	(20)
运气加临脉候寸尺不应之图 .....	(22)
五运六气主病加临转移之图 .....	(24)
木运 .....	(25)
火运 .....	(27)
土运 .....	(29)

---

① 原书目录与内文有出入，依内文改。

金运 .....	(31)
水运 .....	(33)
六气 .....	(35)
<b>二集</b> .....	(45)
手太阴肺经 .....	(45)
手阳明大肠经 .....	(47)
足阳明胃经 .....	(49)
足太阴脾经 .....	(51)
手少阴心经 .....	(53)
手太阳小肠经 .....	(55)
足太阳膀胱经 .....	(57)
足少阴肾经 .....	(59)
手厥阴心包络 .....	(61)
手少阳三焦经 .....	(63)
足少阳胆经 .....	(65)
足厥阴肝经 .....	(67)
<b>三集</b> .....	(69)
治风门 .....	(69)
行气开表药 (凡二十四种) .....	(69)
祛风化痰药 (凡十六种) .....	(70)
清热润燥药 (凡二十五种) .....	(71)
主治各经风药 .....	(72)
治热门 .....	(73)
治上焦热药 (凡十六种) .....	(73)
治中焦热药 (凡二十种) .....	(74)
治下焦热药 (凡十九种) .....	(75)

主治各经热药 .....	(76)
骨肉分癆瘵发热主治药 .....	(76)
治湿门 .....	(77)
补气除湿药 (凡六种) .....	(77)
调中消导药 (凡二十种) .....	(77)
行湿利大小便药 (凡二十三种) .....	(79)
散湿风门药 (凡十三种) .....	(80)
主治各经湿药 .....	(80)
治燥门 .....	(80)
解热生津药 (凡三十种) .....	(81)
滋血润燥药 (凡二十一种) .....	(82)
主治各经燥药 .....	(83)
治寒门 .....	(83)
治上焦寒药 (凡九种) .....	(83)
治中焦寒药 (凡三十种) .....	(83)
治下焦寒药 (凡十四种) .....	(85)
主治各经寒药 .....	(86)
治气门 .....	(86)
补气清气温凉药 (凡四十五种) .....	(87)
温气快气辛热药 (凡十九种) .....	(89)
行气散气降气药 (凡四十二种) .....	(90)
破气消积气药 (凡十四种) .....	(92)
治血门 .....	(93)
补血温血属阳药 (凡十种) .....	(93)
补血生血属阴药 (凡二十九种) .....	(94)
凉血止血行血药 (凡六十二种) .....	(96)

破血消积血药 (凡三十三种) .....	(99)
治痰门.....	(100)
治热痰虚痰药 (凡二十七种) .....	(100)
治湿痰行痰药 (凡十四种) .....	(102)
治寒痰风痰药 (凡十六种) .....	(102)
消克痰积药 (凡十四种) .....	(103)
治疮门.....	(104)
泻火解热药 (凡三十五种) .....	(104)
行气开滞辛温药 (凡三十九种) .....	(106)
治血行血药 (凡四十二种) .....	(107)
解毒攻毒药 (凡一百四十五种) .....	(109)
治毒门.....	(115)
解毒药 (凡八十种) .....	(115)
解毒兼治邪毒 (凡四十种) .....	(119)
治邪药 (凡四十二种) .....	(120)
妇人门.....	(122)
补虚调经安胎药 (凡四十一種) .....	(122)
理产和血行气药 (凡四十五种) .....	(124)
攻克血积药 (凡十七种) .....	(126)
小儿门.....	(127)
治脾病补虚痞泻药 (凡三十二种) .....	(127)
治肝病风热惊痫药 (凡四十四种) .....	(128)
治疮毒药 (凡十九种) .....	(130)

新刊官板本草真诠卷之下<sup>①</sup>

一集	(134)
诸品药性阴阳论	(134)
温性药品 (凡八十六种)	(134)
热性药品 (凡十一种)	(153)
平性药品 (凡五十九种)	(155)
凉性药品 (凡二十八种)	(168)
寒性药品 (凡七十八种)	(176)
诸水	(193)
二集	(195)
食治门	(195)
米谷部 (凡二十一条)	(195)
菜部 (凡二十八条)	(200)
果部 (凡二十一条)	(203)
兽部 (凡十五条)	(206)
禽部 (凡二十六条)	(211)
虫鱼部 (凡二十六条)	(214)
三集	(219)
十二经水火分治歌	(219)
五脏苦欲补泻药味	(219)
用药升降浮沉补泻法	(220)
升降者天地之气交	(221)

<sup>①</sup> 卷之下目录原在卷下，今一并移至书前。

---

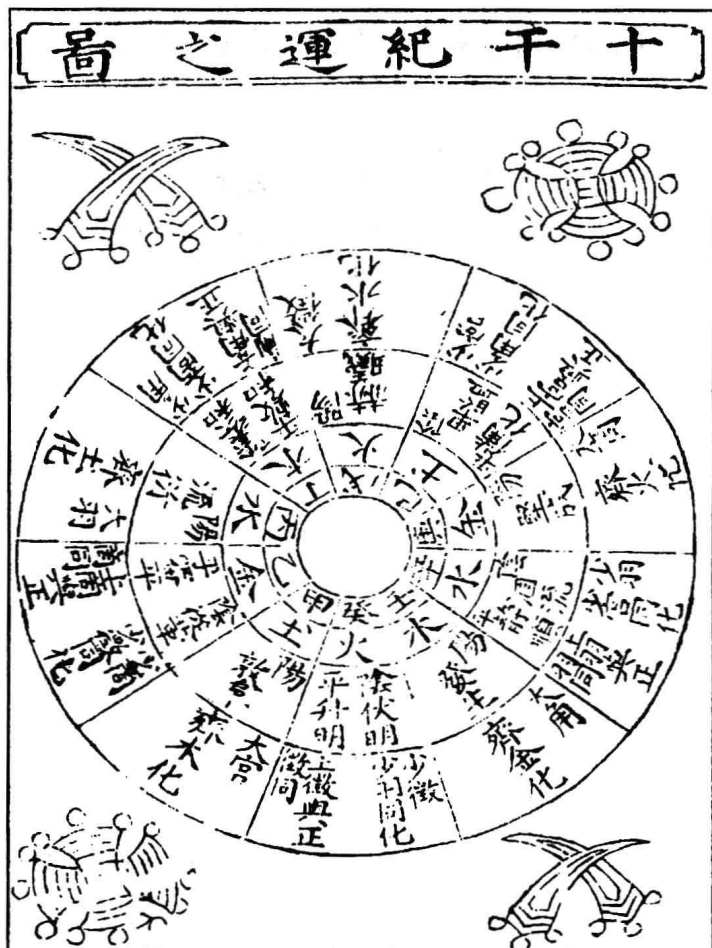
标本阴阳论·····	(221)
五方之正气味·····	(222)
制方之法·····	(224)
七方·····	(225)
十剂·····	(227)
治法纲要·····	(229)
论出产择地土·····	(230)
论收采按时月·····	(231)
藏留防耗坏·····	(231)
贸易辨真假·····	(232)
咀片分根梢·····	(232)
制造资水火·····	(233)
治疗用气味·····	(233)
药剂别君臣·····	(234)
四气·····	(235)
五味·····	(236)
七情·····	(237)
五用·····	(237)
东垣随证治病药品·····	(239)
东垣用药凡例·····	(241)
<b>题《本草真詮》跋·····</b>	<b>(243)</b>

# 新刊官板本草真詮卷之上

清漳調鼎楊崇魁編輯  
建邑蒼泉余良進刊行

# 一 集

## 十干紀運之圖<sup>①</sup>



① 圖題系根據原圖標題所加，下同。



甲己化土，乙庚化<sup>①</sup>金，丙辛化水，丁壬化木，戊癸化火，是谓五运也。然阳年太过，是以木运大角曰发生，火运大徵曰赫曦，土运大宫曰敦阜，金运大商曰坚成，水运大羽曰流衍，盖己胜而欲齐其所胜之化也。阴年不及，是以木运少角曰委和，火运少徵曰伏明，土运少宫曰卑监，金运少商曰从革，水运少羽曰涸流，盖己弱则胜者来兼其化也。其平气之年，则是运逢大过，而为司天所抑，而反其平；运值不及，而得天符岁会相佐，而同其正。又有年辰相合及交气，日时干相合则得为己助，皆命曰平气。其物生脉，应皆合期，无后先也。然难以预纪，当以逐年辰日时干求之，故木运正角曰敷和，火运正徵曰升明，土运正宫曰备化，金运正商曰审平，水运正羽曰顺静也。

---

① 化：原缺，据上下文义补。